

照明器具取扱説明書
LED・蛍光灯器具用吊具

保管用

パイプ吊具品名	ツリグXFP500WW・ツリグXFP750WW・ツリグXFP101WW ツリグXFP500FW・ツリグXFP750FW・ツリグXFP101FW
チェーン吊具品名	ツリグXFC500WW・ツリグXFC101WW ツリグXFC500FW・ツリグXFC101FW

パイプ吊具組み合わせ一覧

	品 名	キャノピー部	パイプ部	吊具全長
ワン型タイプ	ツリグXFP500WW	FP21008W	FK70502W	500
	ツリグXFP750WW		FK70752W	750
	ツリグXFP101WW		FK71002W	1000
フナ型タイプ	ツリグXFP500FW	FP22008W	FK70502W	500
	ツリグXFP750FW		FK70752W	750
	ツリグXFP101FW		FK71002W	1000

チェーン吊具組み合わせ一覧

	品 名	キャノピー部	チェーン部	吊具全長
ワン型タイプ	ツリグXFC500WW	FP21008W	FK80502W	500
	ツリグXFC101WW	FP21008W	FK81002W	1000
フナ型タイプ	ツリグXFC500FW	FP22008W	FK80502W	500
	ツリグXFC101FW	FP22008W	FK81002W	1000

(一般屋内用) ・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

- 施工は、施工説明にしたがい確実に。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 吊具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 天井取付専用吊具にて、傾斜天井・壁面への取付けはしない。落下の原因となります。
- 適合器具以外で使用しない。落下の原因となります。(器具の取扱説明書、またはカタログにてお確かめください。)
- 2本吊り専用にて1本吊りはしない。落下の原因となります。
- ハンガーの取付け間隔は、器具の吊り間隔に合わせる。
落下の原因となります。
- 開放廊下等、風の強い所では使用しない。落下の原因となります。
- 電源線の接続後の絶縁は確実に。
感電・火災の原因となります。
- 単線とより線の直接接続(ねじり接続等)はしない。必ず専用工具で圧着すること。
火災の原因となります。

注意

- 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動のある場所、雨の吹き込みを受ける場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。

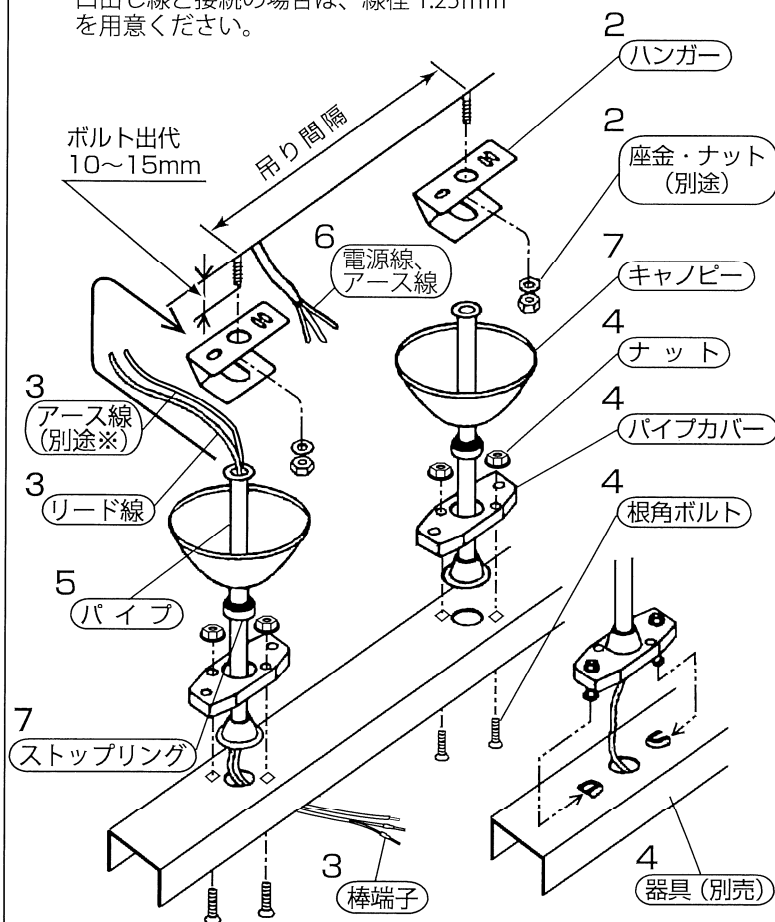
【パイプ吊具の場合】

各部のなまえと取付方法

【ワン型 パイプ吊具の例】

※アース線は別途必要です。

端子台と接続の場合は、単線Φ1.6mmまたはΦ2.0mm
口出し線と接続の場合は、線径 1.25mm
を用意ください。



角穴を使用する場合

馬蹄型穴を使用する場合

1. 取付け前の確認

- ・許容荷重 (2本で30kg) に十分耐えるよう、取付部の強度を確保する。
(取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。)
- ・不備があると器具落下の原因となります。

2. ハンガーの取付け

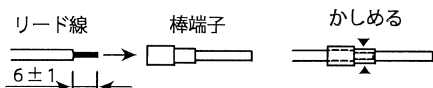
- ・ハンガーを取付ボルトまたはネジにて確実に取付ける。
- ・不備があると器具落下の原因となります。

3. リード線、アース線を器具と接続する。

※詳しくは、器具側の取扱説明書をご覧ください。

端子台と接続の場合

- ・同梱の棒端子をリード線の先端にかしめる。



注) リード線被覆部を棒端子絶縁体の中に差し込み、銅線部が出ないようにかしめること。

- ・リード線、アース線 (別途) を器具側の端子台に接続する。

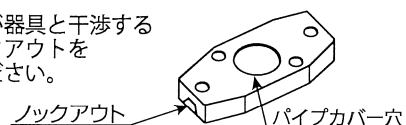
口出し線と接続の場合

- ・リード線、アース線 (別途) を器具口出し線に接続し、絶縁処理を確実に施してください。
- ・リード線、アース線を器具側のパイプ取付部付近の電源穴から引き出す。
(器具の電源穴にはブッシングをはめてください。)
- ・接続が不完全な場合は火災の原因となります。

4. パイプカバーの取付け

- ・パイプカバー穴にパイプを通す。
- ・パイプにリード線を通す。
- ・パイプカバーを根角ボルト・ナットにて器具に取付ける。

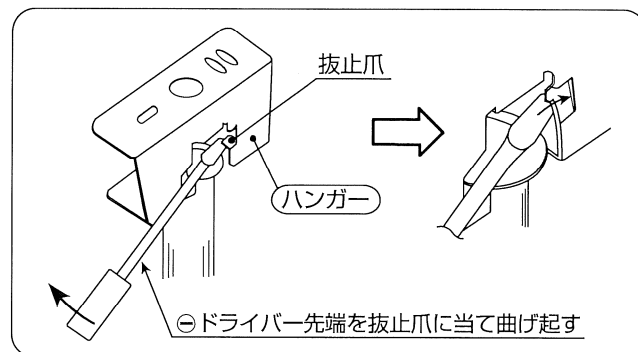
(注) パイプカバーが器具と干渉する場合は、ノックアウトを取り除いてください。



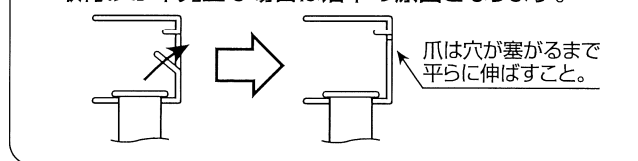
取付けが不完全な場合は落下の原因となります。

5. パイプの取付け

- ・パイプにキャンピーを通す。
- ・パイプを持って器具を持ち上げ、ハンガーに確実に引っ掛ける。
- ・ハンガーのパイプ挿入部にある抜止爪を曲げ起す。



取付けが不完全な場合は落下の原因となります。



6. 電源線、アース線の接続

- ・電源線、器具口出し線、アース線を接続する。
- ・接続部の絶縁を確実に行う。
D種 (第3種) 接地工事が必要。
- ・口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、及び同解釈第12条にしたがうこと。
- ・口出し線の線種: ビニル絶縁電線、2芯
電源線の線径: 0.75 mm

警告 接続、保護が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

7. キャンピーの固定

- ・ストップリングを押し上げて、確実にキャンピーを天井に密着させる。

【チェーン吊具の場合】

各部のなまえと取付方法

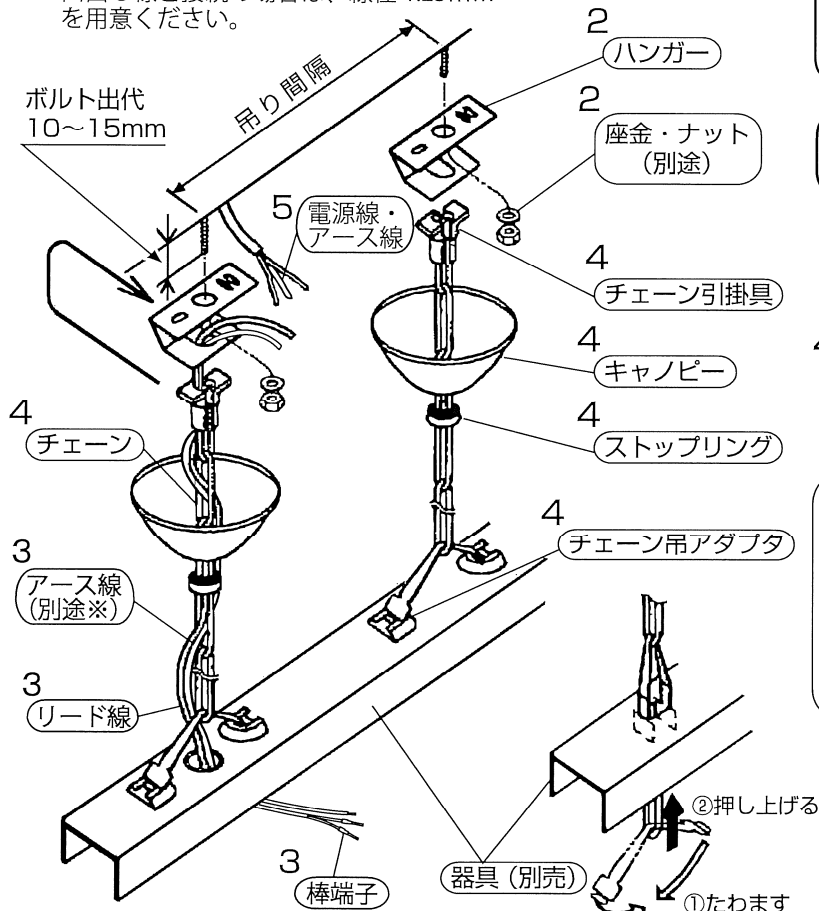
【ワン型 チェーン吊具の例】

※アース線は別途必要です。

端子台と接続の場合は、単線の $\phi 1.6\text{mm}$ または $\phi 2.0\text{mm}$

口出し線と接続の場合は、線径 1.25mm^2

を用意ください。



馬蹄型穴を使用する場合

長穴(12×20)を使用する場合

丸穴($\phi 20$)を使用する場合

1. 取付け前の確認

- ・許容荷重(2本で8kg)に十分耐えるよう、取付部の強度を確保する。
(取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。)
不備があると器具落下の原因となります。

2. ハンガーの取付け

- ・ハンガーを取付ボルトまたはネジにて確実に取付ける。
不備があると器具落下の原因となります。

3. リード線、アース線を器具と接続する。

※詳しくは、器具側の取扱説明書をご覧ください。

端子台と接続の場合

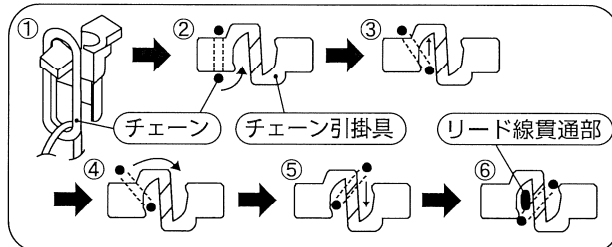
- ・同梱の棒端子をリード線の先端にかしめる。
(詳細は P.2 3. リード線、アース線を器具と接続する。を参照)
- ・リード線、アース線(別途)を器具側の端子台に接続する。

口出し線と接続の場合

- ・リード線、アース線(別途)を器具口出し線に接続し、絶縁処理を確実に施してください。
- ・リード線、アース線を器具側のパイプ取付部付近の電源穴から引き出す。
(器具の電源穴にはブッシングをはめてください。)
接続が不完全な場合は火災の原因となります。

4. チェーン引掛具の取付

- ・チェーン吊アダプタを器具取付穴に取付ける。
- ・チェーンにリード線、アース線をはさみからませる。
- ・チェーンにストップリング、キャンopiesの順に通す。
- ・チェーン先端にチェーン引掛具を取付ける。



取付けが不完全な場合は落下の原因となります。

- ・リード線、アース線はチェーン引掛具のリード線貫通部に通す。
- ・チェーン引掛具を持って器具を持ち上げ、ハンガーにチェーン引掛具を引掛ける。

取付けが不完全な場合は落下の原因となります。

5. 電源線、アース線の接続

- ・電源線、器具口出し線、アース線を接続する。
- ・接続部の絶縁を確実にを行う。
D種(第3種)接地工事が必要。
- ・口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、および同解釈第12条にしたがうこと。
- ・口出し線の線種：ビニル絶縁電線、2芯
電源線の線径： 0.75mm^2

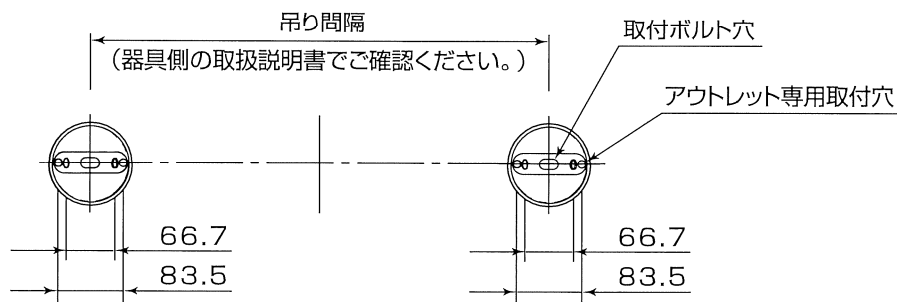
警告 接続、保護が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

6. キャンopiesの固定

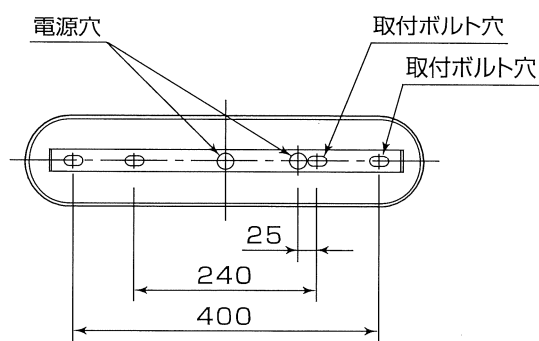
- ・ストップリングを押し上げて、確実にキャンopiesを天井に密着させる。

吊具背面図 (パイプ吊具・チェーン吊具共通)

【ワン型タイプ】



【フナ型タイプ】



- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意**警告**

- 吊具を改造しない。落下の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常状態のままで使用すると、感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
- 器具側のランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切る。感電の原因となります。

**注意**

- アルカリ系洗剤は使用しないでください。強度低下による破損の原因となります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
点検せずに長期間使い続けると、まれに落下・感電・火災などに至る場合があります。

お手入れ・ランプ交換**注意**

(必ず電源を切ってください。感電の原因となります。)

- 器具の清掃について……………
- 水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質・強度低下による破損の原因となります。